

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 11335257
PUBLICATION DATE : 07-12-99

APPLICATION DATE : 19-05-98
APPLICATION NUMBER : 10153731

APPLICANT : FANCL CORP;

INVENTOR : ISHIDA TAKAO;

INT.CL. : A61K 7/48 A61K 7/00

TITLE : SKIN COSMETIC

ABSTRACT : PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a skin cosmetic having excellent inhibitory effects on skin aging (chapped skin improving effect, beautiful skin effect, etc.), by eliminating action on active oxygen by including an essence extracted from *Petroselinum sativum* and an essence extracted from *Fagus silvatica* L.

SOLUTION: This cosmetic contains (A) an essence extracted from *Petroselinum sativum* and (B) an essence extracted from *Fagus silvatica* L. The formulation amounts is preferably 0.001-10.0 wt.%, more preferably 0.01-2.0 wt.% based on the total amount of the skin cosmetic of the component A and 0.001-10.0 wt.%, more preferably 0.01-2.0 wt.% of the component B. The component A is the essence extracted from the leaves, stems, roots and the whole plant of *Petroselinum sativum*. The component B is the essence extracted from young buds of *Fagus silvatica* L. Water, 1,3-butylene glycol, ethanol, etc., are preferably used as the extraction solvent for both the components A and B.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-335257

(43) 公開日 平成11年(1999)12月7日

(51) Int.Cl.⁴

識別記号

F I

A 6 1 K 7/48

A 6 1 K 7/48

7/00

7/00

K

C

W

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平10-153731

(22) 出願日 平成10年(1998)5月19日

(71) 出願人 593106918

株式会社ファンケル

神奈川県横浜市栄区飯島町109番地1

(72) 発明者 宇田 正紀

神奈川県大和市南林間6丁目1番9-305号

(72) 発明者 宮本 達

神奈川県茅ヶ崎市東海岸北4丁目16番2号

(72) 発明者 石田 隆男

神奈川県藤沢市片瀬2丁目20番12号

(74) 代理人 弁理士 藤沢 則昭 (外1名)

(54) 【発明の名称】 皮膚化粧品

(57) 【要約】

【課題】 パセリエキス等を単独で配合した場合と比較して、画期的に活性酸素消去作用、細胞賦活作用、保湿作用が高まり、皮膚内の活性酸素を消去し、日常の紫外線により受けた皮膚細胞の損傷を回復させ、また皮膚の繊維の損傷を防止し、さらに皮膚内の表皮細胞のターンオーバーを整え、コラーゲンの生合成を高めることにより皮膚のハリを保ち、若々しい肌を維持するという美肌効果を有する皮膚化粧料を提供する。

【解決手段】 パセリから抽出されるエキスを、ブナの木から抽出されるエキスまたは1, 2-ベンタンジオールとを組み合わせる含有する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 パセリから抽出されるエキスとブナの木から抽出されるエキスを組み合わせて含有することを特徴とする、皮膚化粧料。

【請求項2】 パセリから抽出されるエキスと1, 2-ベンタンジオールを組み合わせて含有することを特徴とする、皮膚化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、活性酸素の消去作用を有する皮膚化粧料に関するものである。

【0002】

【従来の技術】紫外線などにより皮膚で発生する活性酸素は、皮膚の角質層及び表皮細胞、真皮細胞にダメージを与え、老化の原因のひとつと考えられている。老化皮膚とは角質層が乾燥して滑らかさがなく、荒れ肌や角質層の剥離が見られる。また、表皮の細胞数は減少し、表皮細胞の代謝が低下して皮膚のターンオーバー速度が遅くなることが知られている。真皮においてはヒアルロン酸の減少、コラーゲンやエラスチンなどの変性によりしわやたるみが認められる。従来の活性酸素の消去作用を持つ皮膚化粧料としてはパセリから抽出されるエキス（以下パセリエキスという）を配合するものがあった（特開平9-221410号公報）。

【発明が解決しようとする課題】

【0003】しかしながら、パセリエキス単独を配合する化粧料では、活性本質は皮膚に容易に浸透し難く、パセリエキス単独ではその効果は十分であるとはいえなかった。また単独で使用した場合、皮膚上でのパセリエキスの安定性に問題があり、使用性が悪かった。

【0004】また、近年ではオゾン層の破壊による紫外線量の増大が考えられ、肌にとって有害であり、老化の原因のひとつとして知られている活性酸素の対策やそれに伴ってダメージを受けた肌細胞の賦活化、また、環境の破壊や変化による肌の乾燥などに対応する化粧品の開発が待望されている。

分子量：104 分子式：C₁₀H₁₂O₂ 外観：無色透明の液体

この物質は、保湿成分として化粧料中に使用されており、容易に入手しこの発明の皮膚化粧料中への配合が可能であるが、公知の方法により合成したものをこの皮膚化粧料中に配合することも出来る。

【0010】この発明に用いられるパセリエキスの配合量は、皮膚化粧料の総量を基準として0.001～10.0重量%、より好ましくは0.01～2.0重量%であり、ブナの木エキスの配合量は、皮膚化粧料の総量を基準として0.001～10.0重量%、より好ましくは0.01～2.0重量%である。また1, 2-ベンタンジオールの配合量は皮膚化粧料の総量を基準として0.01～20.0重量%が好ましい。

【0011】この範囲でパセリエキスとブナの木エキスを

【0005】そこでこの発明は、こうした課題に鑑み鋭意研究を重ねた結果、パセリエキス等を単独で配合した場合と比較して画期的に活性酸素消去作用、細胞賦活化作用、保湿作用が高まり、皮膚内の活性酸素を消去し、日常の紫外線により受けた皮膚細胞の損傷を回復させ、また皮膚の繊維の損傷を防止し、さらに皮膚内の表皮細胞のターンオーバーを整え、コラーゲンの生合成を高めることにより皮膚のハリを保ち、若々しい肌を維持するという美肌効果を有する皮膚化粧料を提供し、上記課題を解決しようとするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】請求項1項の発明は、活性酸素の消去作用を有するパセリから抽出されるエキスとブナの木から抽出されるエキスを組み合わせて配合した皮膚化粧料とした。

【0007】また請求項2項の発明は、上記パセリから抽出されるエキスと1, 2-ベンタンジオールを組み合わせて配合した皮膚化粧料とした。

【0008】

【実施の形態例】以下この発明の実施の形態例を説明する。この発明に用いられるパセリエキスは、パセリ（*Petroselinum sativum*）の葉、茎、根及び全草から抽出されるエキスであり、抽出溶媒は特に限定されないが、水、1, 3-ブチレングリコール、エタノール、グリセリン等の溶媒であり、単独若しくは2種以上の混液により抽出されるエキスである。また上記ブナの木エキスはブナの木（*Fagus silvatica* L.）の幼芽から抽出されるエキスであり、抽出溶媒は特に限定されないが、水、1, 3-ブチレングリコール、エタノール、グリセリン等の溶媒であり、単独若しくは2種以上の混液により抽出されるエキスである。

【0009】またこの発明に用いられる1, 2-ベンタンジオールは二価の脂肪族アルコールの一種で公知の物質であり、以下の性質を有する。

を組み合わせて配合、またはパセリエキスと1, 2-ベンタンジオールを組み合わせて配合することにより、この発明の目的とする効果が得られる。

【0012】またこの発明の皮膚化粧料は、例えば洗顔料類、ローション類、乳液類、クリーム類、パック類等に適用することができる。なお、この発明の皮膚化粧料には、上記の他に色素、香料、防腐剤、界面活性剤、顔料、抗酸化剤等をこの発明の目的を達成する範囲内で適宜配合することができる。

【0013】

【実施例】次に実施例及び比較例に基づいてこの発明を詳述する。この発明に使用した荒れ肌改善効果試験、角質層のターンオーバー測定試験、官能テストは以下のと

おりである。

【0014】〔荒れ肌改善効果試験〕下脚部に荒れ肌を有する中高年被験者10名を対象に4週間連続塗布し、その効果を評価した。即ち、被験者の左側下脚外側試験部位に1日1回、約0.5gの試料を塗布し、試験開始前及び試験終了後の皮膚の状態を表1の判定基準により判定した。右側下脚部は試料を塗布せずに対照とした。試験前後の試験部位と対照部位の判定結果を比較し、皮膚乾燥度が2段階以上改善された場合（例えば、+-、++、+++）を有効とし、1段階改善された場合をやや有効、変化がなかった場合を無効とした。試験結果は有効、やや有効となった被験者の人数で示した。

【0015】

【表1】

判定	評価
正常	-
軽微乾燥、落屑なし	±
乾燥、落屑軽微	+
乾燥、落屑中程度	++
乾燥、落屑顕著	+++

【0016】〔角質層のターンオーバー測定試験〕蛍光色素のダンシルクロライドを白色ワセリン中に5重量%

配合した軟膏を作り、被験者10名の前腕部の皮膚に24時間閉塞貼布し、角質層にダンシルクロライドを浸透結合させた。その後同じ部位に1日2回（朝・夕）被試験料を約0.2g塗布し、毎日1回暗所で紫外線ランプを用いて、ダンシルクロライドの蛍光を調べ、その蛍光が消滅するまでの日数を皮膚角質層のターンオーバーとした。測定結果は各被試験者の日数の平均値で示した。なお、通常の皮膚角質層のターンオーバーは13～16日であるが、老化した皮膚においては、18日前後に延びる。それに対して老化防止効果が現われると13日前後にまで短縮される。

【0017】〔官能テスト（美肌効果試験）〕荒れ肌、小じわ、乾燥肌等を訴える女子被試験者（35～55歳）10人に試料を1日2回（朝・夕）連続4週間塗布して、4週間後の効果を評価した。試験結果は、皮膚の湿潤性、平滑性、弾力性の各項目に対して、皮膚に潤いが生じた、皮膚が滑らかになった、皮膚に張りが生じたと回答した人数で示した。

【0018】〔比較例1～4及び実施例1～8〕表2記載の組成の化粧液、比較例1～4及び実施例1～8をそれぞれ常法に従って調製し、前記諸試験を実施し、結果を表3に記載する。

【0019】

【表2】

原料成分	配合量(重量%)							
	比較例1	比較例2	比較例3	比較例4	実施例1	実施例2	実施例3	実施例4
グリセリン	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
1,3-ブチレングリコール	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
エタノール	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
ポリオキシエチレン(60EO)・ 硬化ヒマシ油	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
精製水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余
バセリエキス	0.0	0.01	0.0	0.0	0.001	0.01	2.0	10.0
ブナの本エキス	0.0	0.0	0.01	0.0	0.001	0.01	2.0	10.0
1,2-ペンタンジオール	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.01	0.0	0.0

原料成分	配合量(重量%)			
	実施例5	実施例6	実施例7	実施例8
グリセリン	5.0	5.0	5.0	5.0
1,3-ブチレングリコール	6.0	6.0	6.0	6.0
エタノール	10.0	10.0	10.0	10.0
ポリオキシエチレン(60EO)・ 硬化ヒマシ油	1.0	1.0	1.0	1.0
精製水	残余	残余	残余	残余
バセリエキス	0.001	0.01	2.0	10.0
ブナの本エキス	0.0	0.0	0.0	0.0
1,2-ペンタンジオール	0.1	1.0	5.0	10.0

【0020】

【表3】

	比較例1	比較例2	比較例3	比較例4	実施例1	実施例2	実施例3	実施例4
パセリエキス濃度(重量%)	0.0	0.01	0.0	0.0	0.001	0.01	2.0	10.0
ブナの木エキス濃度(重量%)	0.0	0.0	0.01	0.0	0.001	0.01	2.0	10.0
1,2-ペンタンジオール濃度(重量%)	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.01	0.0	0.0
荒れ肌改善効果試験	3	4	4	4	5	7	7	7
ターンオーバー測定試験	17	17	17	17	15	13	12	12
官能テスト	2	3	3	3	5	5	8	8

	実施例5	実施例6	実施例7	実施例8
パセリエキス濃度(重量%)	0.001	0.01	2.0	10.0
ブナの木エキス濃度(重量%)	0.0	0.0	0.0	0.0
1,2-ペンタンジオール濃度(重量%)	0.1	1.0	5.0	10.0
荒れ肌改善効果試験	5	6	7	7
ターンオーバー測定試験	16	13	13	12
官能テスト	4	6	8	8

【0021】上記表3の結果から、基本となる比較例1の化粧液、及び比較例1の化粧液にパセリエキス、ブナの木エキス、1,2-ペンタンジオールを夫々単独に配合した化粧液、即ち、比較例2、比較例3及び比較例4に比べ、パセリエキスとブナの木エキスを組み合わせて配合した化粧液、即ち、実施例1～4、及びパセリエキスと1,2-ペンタンジオールを組み合わせて配合した化粧液、即ち、実施例5～8が荒れ肌改善効果、ターン

オーバー促進効果、美肌効果とも高いことが示された。

【0022】〔比較例5～8及び実施例9～16〕表4記載の組成のクリーム、比較例5～8及び実施例9～16をそれぞれ常法に従って調製し、前記諸氏件を実施し、結果を表5に記載する。

【0023】

【表4】

原料成分	配合量(重量%)							
	比較例1	比較例2	比較例3	比較例4	実施例5	実施例6	実施例7	実施例8
ステアリルアルコール	5.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
ステアリン酸	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
スクワラン	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0
オクチルドデカノール	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
1,3-ブチレングリコール	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
ポリエチレングリコール1500	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
POE(25)セチルアルコールエーテル	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
モノステアリン酸グリセリル	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
精製水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余
パセリエキス	0.0	0.01	0.0	0.0	0.001	0.01	2.0	10.0
ブナの木エキス	0.0	0.0	0.01	0.0	0.001	0.01	2.0	10.0
1,2-ペンタンジオール	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.01	0.0	0.0

原料成分	配合量(重量%)			
	実施例13	実施例14	実施例15	実施例16
ステアリルアルコール	6.0	6.0	6.0	6.0
ステアリン酸	2.0	2.0	2.0	2.0
スクワラン	9.0	9.0	9.0	9.0
オクチルドデカノール	10.0	10.0	10.0	10.0
1,3-ブチレングリコール	8.0	8.0	8.0	8.0
ポリエチレングリコール1500	4.0	4.0	4.0	4.0
POE(25)セチルアルコールエーテル	3.0	3.0	3.0	3.0
モノステアリン酸グリセリル	2.0	2.0	2.0	2.0
精製水	残余	残余	残余	残余
パセリエキス	0.001	0.01	2.0	10.0
ブナの木エキス	0.0	0.0	0.0	0.0
1,2-ペンタンジオール	0.1	1.0	5.0	10.0

【0024】

【表5】

	比較例5	比較例6	比較例7	比較例8	実施例9	実施例10	実施例11	実施例12
パセリエキス濃度(重量%)	0.0	0.01	0.0	0.0	0.001	0.01	2.0	10.0
ブナの木エキス濃度(重量%)	0.0	0.0	0.01	0.0	0.001	0.01	2.0	10.0
1,2-ペンタンジオール濃度(重量%)	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.01	0.0	0.0
荒れ肌改善効果試験	4	4	5	4	5	7	8	8
ターンオーバー測定試験	17	17	17	17	15	13	12	12
官能テスト	2	3	3	3	5	6	8	8

	実施例13	実施例14	実施例15	実施例16
パセリエキス濃度(重量%)	0.001	0.01	2.0	10.0
ブナの木エキス濃度(重量%)	0.0	0.0	0.0	0.0
1,2-ペンタンジオール濃度(重量%)	0.1	1.0	5.0	10.0
荒れ肌改善効果試験	5	6	7	7
ターンオーバー測定試験	16	13	13	12
官能テスト	6	7	8	8

【0025】上記表5の結果から、基本となる比較例5のクリーム及び比較例5のクリームにパセリエキス、ブナの木エキス、1,2-ペンタンジオールをそれぞれ単独に配合したクリーム、即ち、比較例6、比較例7及び

比較例8に比べ、パセリエキスとブナの木エキスを組み合わせて配合したクリーム、即ち、実施例9～12、及びパセリエキスと1,2-ペンタンジオールを組み合わせて配合したクリーム、即ち、実施例13～16が荒れ

肌改善効果、ターンオーバー促進効果、美肌効果とも高いことが示された。

【0026】

【発明の効果】以上の記載のごとく、上記請求項1項及

び請求項2項の発明は、活性酸素消去作用により皮膚老化防止効果（荒れ肌改善効果、角質改善効果、角質層のターンオーバーを速くする効果、美肌効果等）の優れた皮膚化粧品を提供することができる。